3・11後を生きる

手に取って、今やろう

都作製のマニュアル「東京防災」

生き抜く　首都大震災

「東京防災」読みましたか。今年九月一日、東京都が都内全世帯に順次、無料配布を始めた防災マニュアルです。約七百五十万冊作製。今月十六日からは一冊百四十円（税込み）で販売され、在庫切れにもなるほどの人気ぶりです。

役所の防災マニュアルといえばパンフレット的なもので内容も決まりきっていましたが、東京防災はなかなかよくできています。B6判で三百四十ページ。制作費は二十億円。「少々厚すぎる」「予算がかかりすぎ」との批判もありますが、ネットユーザーの声は「内容がガチ」「役に立つ」とおおむね好意的です。

中身を見ると、三十年以内に70％の確率で発生するとされる首都直下地震を受け、「今やろう」というコンセプトが貫かれています。「大震災シミュレーション」「もしもマニュアル」「知っておきたい災害知識」などの項目ごとに、都民一人一人の具体的な防災行動に結びつくよう、イラストを多用して分かりやすく構成しています。

本編を黄色地のページにしたり、最後にマンガを入れたりして、多くの都民に読んでもらおうという制作側の意欲がみられます。「オリジナル防災MAP」も同包。PDF版では英語、中国語、韓国語バージョンを公開しています。

実際どれくらいの都民に読まれているのでしょう。十月末に都在住二十～三十代の会社員二百人に実施したアンケートが、フリーペーパー／ウェブサイト「R25」に掲載されていました。結果は「一通り目を通した」40・5％、「まだ読んでいない」41・5％、「まだ届いていない」18・0％。一方で「2020年東京五輪までに東京に大震災が起きるか」の問いには「起こると思う」60・5％、「起こるとは思わない」39・5％。半数以上が大震災は来ると考えながらも、東京防災を読んでいる人が半数以下なのは気になる点です。

筆者も日夜、特に二十、三十代の若者が具体的な防災ノウハウを身につけるために、と活動を続けています。「彼女を守る51の方法」と題した防災本、コミックス、さらにスマートフォン向け防災アプリを世に送り出してきました。ゲームソフト「絶体絶命都市」シリーズの監修も担当。このゲームは災害時のシミュレーションであり、防災知識を身につけていくというテーマを持っています。

これらの経験を通じ、読み手に興味を持ってもらう工夫が必要なことを痛切に感じています。東京防災では、火山も、テロもと、あまりにも盛りだくさんな内容で、三百ページを超す冊子になったことは残念ですが、一度は手に取り、防災対策を実施してほしいものです。「今やろう。災害から身を守る全てを。」

防災・危機管理ジャーナリスト
渡辺　実さん

わたなべ・みのる　1951年生まれ。35年以上にわたり、国内外の被災地を取材し、防災対策の提言を続ける。株式会社まちづくり計画研究所代表取締役所長。「都市住民のための防災読本」「高層難民」など著書多数。

東京都が作製した「東京防災」